

令和元年度事務事業実績評価表

1 事業概要

		課名	文化会館	事業No.	322
事務事業名		会計	一般会計		
		事業区分	政策	実施区分	継続
		開始		終了	
根拠	主要区分	主	記号	計画等名称	
	戦略計画		4	自然と歴史を守り活かし伝え、新たな文化をつくりだす	
	分野別計画		飯田市教育振興基本計画		
			飯田市文化芸術振興基本方針		
		人形劇のまちづくりを推進する新たな仕組みに関する方針			
法令・例規等					
事業目的	対象	市民			
	意図	人形劇フェスタのみならず、年間を通じて人形劇を鑑賞したり、体験したり、公演の企画運営をおこない、人形劇を通して文化芸術を楽しみます。			

2 事業内容

1年度取組	取組内容		経費の内容				事業費(千円)				
	・人形劇フェスタ、人形劇センターの人形劇公演、巡回公演などを年間を通じ実施し、市民が人形劇に触れる機会を創出しました。 ・創造支援事業は、地域劇団の活動を支援するとともに、伊那谷の古代史を題材に講座を開催し、多様な世代が人形劇の創造活動に参加する機会を創出しました。 ・伊那谷の伝統人形浄瑠璃を保存伝承するために、保存会の支援や後継者育成のための講習会等を実施しました。 ・人形劇フェスタの開催や、人形劇の友・友好都市国際協会(AVIAMA)総会への参加を通して「人形劇の世界都市・飯田」の魅力を国内外に発信しました。		いいだ人形劇フェスタ開催事業負担金			23,000					
			「いいだ人形劇センター」活動支援負担金			11,000					
			人形劇公演事業負担金			2,614					
			人形劇創造支援事業費			3,287					
			人形劇のまち国際化推進事業費			2,646					
			伝統人形芝居振興事業			2,612					
			「人形劇のまち飯田」運営協議会負担金			734					
			人形とけい塔設備保守委託料他			1,513					
			その他の経費			0					
活動指標			指標名 (数値で表せる活動量)	単位	平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度
			計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	
	ワッペンの販売数	枚	12,500	11,597	14,000	15,236	12,000	12,028			
	フェスタ期間中の観劇者数	人	40,000	41,647	60,000	60,649	40,000	34,870			
	フェスタ以外の人形劇公演観劇者数	人	11,800	12,687	12,000	12,441	12,500	11,445			
	人形劇創造活動への参加者数	人	900	2,087	800	1,482	800	1,655			
	地域劇団の数	団体					70	71			
	地域劇団の上演回数	回					420	382			
1年度決算(千円)	予算額	50,031	特定財源内訳及び補足事項								
	決算額	47,406	(国)文化芸術振興費補助金(1/2以内)								
	財源の状況	国庫支出金	6,320	(そ)ふるさと寄附金							
		県支出金	0								
		地方債	0								
		その他	3,701								
一般財源	37,385										

3 事務事業を構成する予算科目

番号	会計	款	項	目	大 事 業	中 事 業	予算額	決算額	中事業名(科目名称)	
1	1	10	5	7	13	1	13,369	13,247	人形劇のまちづくり推進事業費	
2	1	10	5	7	13	4	23,000	23,000	いいだ人形劇フェスタ開催事業費	
3	1	10	5	7	13	10	2,743	2,614	人形劇公演事業費	
4	1	10	5	7	13	11	4,710	3,287	人形劇創造支援事業費	
5	1	10	5	7	13	12	3,554	2,646	人形劇のまち国際化推進事業費	
6	1	10	5	7	13	14	2,655	2,612	伝統人形芝居振興事業費	
7										
振り返り課題認識		・人形劇フェスタ、人形劇の観劇や創造活動など、人形劇に触れる機会は増えていますが、参加されるのは関心のある一部の市民にとどまっています。人形劇フェスタは参加者(ワッペン購入者)やサポートスタッフが減少しており、フェスタを生み出す楽しさをみんなで味わえるような取組の展開が望まれています。 ・人形浄瑠璃は、少子高齢化や文化活動等の多様化による若い担い手の不足、また、座員の減少や高齢化が課題です。								
上記の課題解決のための有効策		・人形劇講座や鑑賞事業を継続し、多様な世代が人形劇に親しむ機会を提供していくことが必要です。人形劇フェスタは、みんなで今までの成果を検証し、今後のあり方を検討する機会を持ちます。 ・関係団体と協議しながら人形芝居の普及と伝承活動を継続し、座員の確保につながる活動を行います。								
次年度に向けての取り組み		・フェスタは、誰でも「みんないっしょに」つくりあげる事を大切にし、今後の運営のあり方を検証する機会を持ちます。 ・伝統芸能の認知向上と人材育成のため、学校を対象に芸員の指導やワークショップを行い、郷土芸能への興味を持つ機会を創出します。								